

東京バッハ合唱団 月報

[第 699 号] 2020 年 9 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101
Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604
Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 699

September 2020

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

12 月の定期演奏会、本番は中止

代替に、ネット配信用の無聴衆演奏

右<急告>のとおり、本年 12 月に予定されていた第 119 回定期演奏会の中止をお知らせしなければなりません。

先月号の月報（8 月号）に、この定演に関し、「実施の可否、開催形態の選択等々の決定のリミットを 8 月中と定め、十全の準備を進めております」と報告しましたが、その期限を迎えて、去る 8 月 15 日に臨時の会合を持ち、右の内容を決議しました。

年明け早々に演奏用楽譜をお送りし、すでにご準備を進めてくださっていたソリストの先生方には、コロナ禍に振り回されたとはいえ、このような決定に至らざるを得なかった無念をお伝えし、お詫びを申し上げます。その他多くの関係の皆様方にも、経緯をご説明し、ご承諾をいただきました。

これで「2020 年の、たった 1 つの公演？」（月報 7 月号の、主宰者の巻頭表題）の「？」が、いやな予感の疑問符ではなくなってしまったのです。

「万が一でも、年末のこの公演がキャンセルなどということになれば、この“2020 年”という年は、1 つの公演も行えなかった年になってしまいます。そんなことのないように祈りますが […….]」（同上）、の祈りも虚しくなってしまったのです。

さて、「2020 年の、たった 1 つの公演」を楽しみにお待ちいただいた後援会員・サポーター（支援会員）・団友のみなさま、月報読者の皆さまには、この誌上でご報告し、ご了解をいただきたいと思えます。

言うまでもなく、私たちの活動は、皆さまの温かい応援に支えられています。この災いがどれほど続くのか、だれも答えを持ち合わせていませんが、心のこもったバッハの音楽をお届けしつづける以外に、ご期待に報いるすべのない私たちです。お励ましをお願い申し上げます。

以下、臨時相談会の席上で配られた「12 月公演につき、緊急提案」をもとに、中止の判断に至った経緯をご報告します。

月報 2020 年 9 月号 CONTENTS

- ・正しい方向に勇気を出しましょう（大村恵美子）…p. 3
- ・書簡「《キラキラ星変奏曲》完成を目指して」（松尾茂春）…p. 4
- ・<公演予定>第 120 回定期演奏会（2021 年 6 月）、他 …p. 4

<急告>

後援会員、サポーター、団友、月報読者の皆様

■第 119 回定期演奏会は中止

本年 12 月 6 日、三鷹市芸術文化センター・風のホールでの開催を予定していた定期演奏会は中止と致します。年末までのコロナ蔓延状況の終息に見通しが立たず、また会場の対策ガイドライン遵守（来聴者対応、出演者対応）に時間的・人力的な無理がある等の事情により（本文中に詳細掲載）、開催困難と判断し、関係各方面に中止を通知しました。

来場のご常連にはご高齢者が多くっており、このコロナ禍での真冬の晩の外出には不安、という方の多かるうことも考え合わせますと、中止の判断も止むを得ませんでした。ご理解賜りますようお願いいたします。

■予定した曲目は、オンラインでお届けします

（無聴衆で全曲収録、クリスマスシーズンに YouTube で配信）

- ・カンタータ第 110 番《喜び 笑い あふれ》
- ・《クリスマス・オラトリオ》第 1~3 部

[独唱] 平良栄一（テノール/エヴァンゲリスト）

[室内楽] ARS（コルギウム・アルモニア・スペリオレ・ジヤパン）有志

[オルガン] 中澤未帆

[指揮/訳詞] 大村恵美子

[収録] 2020 年 12 月 5 日、6 日（荻窪教会、無聴衆）

[配信予定] クリスマスシーズン中（後日、詳細を月報/当団公式サイト/Facebook 等でご案内）

[YouTube 専用チャンネル] 2020 年 8 月 18 日開設。現在、実験用に限定公開中。

(1) 3 か月前、決断のタイムリミット

第 119 回定演の開催予定日は、12 月 6 日でした。本来ならばとくに準備できていなければならぬチラシやチケットの印刷を、ぎりぎりまで伸ばしていました。出演者への最終確認の期限、チケットの売り出し、各紙誌への広報出稿の締め切り等々、もろもろのリミットが、この 8 月一杯だったのです。

6 月からは、段階的に合唱練習を再開しましたが、まだ週 1 回、1 声部ずつの試運転、7 月・8 月は 2 声部ずつ、この 9 月より、ようやく週 2 回（間引きつつ）、4 声部の合同練習に辿りつこうとしています。この間、毎週 1 回、オンライン会議システム Zoom を利用して相談会を継続し、状況の分析、そのつどの課題の解決を

図ってきましたが、このなかで、定演開催の可否という重大な議論は、実際に1か所に顔を合わせてなされるべきということになり、練習が休みであった8月15日(土)の荻窪教会をお借りして、マスクやフェイスシールドを付けての臨時相談会となりました。

ここで交わされた議論は、おおむね以下の通り：

(2) 第119回定期演奏会(12/6、三鷹)は中止する

定期演奏会の開催のためには、次の各要件のすべてをクリアしなければならない。

- ・事態収束は望めない。現下(8月中旬)の、都内および国内でのコロナ感染拡大の状況からは、12月公演開催までの3か月間(9月・10月・11月)での事態の収束は望めない(第2波を乗り切っても、「秋-冬の蔓延」との予測も)。

- ・演奏の質を保証できるか? この3か月間は、12月公演に向けての練習充実期間であるが、この事態により、今後の練習回数の制限や練習参加団員数の減少などが懸念される。

- ・健康と生命への責任。主催者=合唱団としては、団員に限らず、来聴者、出演者(ソリスト/奏者)、スタッフ等、全ての関係者の健康と生命に責任がある。

- ・ガイドライン遵守の対処は、当日1時間では困難。公演開催については、ホール指針(入場者数を半数に制限/聴衆全員のマスク着用/入場時の検温/手指の消毒/連絡先記名、舞台上の出演者間の距離、その他)の順守が必須であり、当日の開場18:00から開演19:00までの1時間での対処は困難である(人員的にも)。

- ・チケット販売、および聴衆動員はむずかしい。高齢者の多いご常連来場者(招待者を含む)にとって、厳冬期、日曜の晩、郊外の初会場という当初設定自体の弱点の上に、コロナ禍が致命的な障害となることも予測される。収入予算への打撃は明白。

しかしこのままでは、コロナ禍のなか、自宅で自主練習を重ね、また工夫を凝らして声部ごとの練習を積み上げてきたわれわれの半年間の努力は無になってしまいます。夏の諸プログラムが延期され、「2020年の、たった1つの公演」(第119定期)までもが消滅する…、それは悪夢です。このことは、われわれとの協演

▼ハクサンフウロ(白山風露) 撮影・千葉光雄(団員)



◆月報バックナンバーは、当団HPからご覧いただけます。

も軌道に乗りかけていた、愛好家オーケストラ「ARS」のメンバーのみなさんにとっても同様です。

そこで、ちょうどこのタイミングで、杉並区が立ち上げたコロナ対策「新しい芸術鑑賞様式助成金」制度を活用すれば、代替のコンサートを、無聴衆でも実施できるのでは? という話が持ち込まれました。杉並区は、われわれが練習会場としてお借りしている荻窪教会の所在地です。3.11被災地訪問演奏(2015年、南相馬市)以来、荻窪教会でも数回の無料コンサートに後援名義をいただき、地域貢献の実績をあげていますので可能性、大でしょう。

実施案は以下の通り：

(3) 12/5、6両日に、ネット配信用の無聴衆演奏

- ・本番予定の12/6とリハーサル予定の前日12/5両日を使って、荻窪教会で無聴衆での演奏をおこなう。

- ・BWV110、BWV248/I-III、全曲演奏・収録。年末にYouTubeで配信することを前提。DVDも制作。

- ・プロの独唱者はエヴァンゲリスト(T)のみ、他3声部(S、A、B)は合唱団員による斉唱で代替。

- ・杉並区のコロナ対策「新しい芸術鑑賞様式助成金」の対象用に仕上げるので、高度な感染対策が必須。会堂全体を演奏スペースとし、換気・距離等の対策を徹底的に施して上演に臨む。リスク分散のため、演奏収録は2日に分ける。

- ・「新様式」創造への挑戦。合唱団員と室内楽「ARS有志」等、全出演者には、「新様式」創造への“挑戦”というモチベーションをもって、さらに完成度の高い準備を続けていただく。

- ・「コロナ下のクリスマス・シーズンに、日本語演奏で、バッハの《クリスマス・オラトリオ》を」といったテーマ(仮題)で、ネット上、紙誌上等で事前の広報を展開し、視聴者層をひろげる。

(4) 感染が懸念される中、なぜ演奏会を実施するのか?

上記の諸項目の検討をへて、本番の中止と代替上演の実施を決定しました。世界中の日常の営みを、あつという間に中断させてしまう感染症の蔓延といった事態は、前代未聞です。参考にすべき対処法を持たないなかでの決定が、正しかったのかどうか、今は分かりません。「コロナ」終息の後に、みなさんとともに検証する日を待ちましょう。

ところで、(3)の「新しい芸術鑑賞様式助成金」申請に当たり、区の担当課から「なぜ、COVID-19の感染が懸念される中で演奏会を実施するのか、その理由」を挙げるよう求められている、とのことでした。しかも折衝してくださっている団員さんによると、“1~2行で”とも。

この“1~2行で”はともかくとして、主宰者・大村恵美子とともに、解答を用意してみました。

「いつも通りに。」が、主宰者の答えでした。12月にはバッハの《クリスマス・オラトリオ》を演奏する、

いつもそうしている。うちの合唱団では57年前から、バッハの故国では200年以上前から、ということなのでしょう。見事に“1行”ですが、これで済めば、杉並区の文化行政の水準は世界一、と誇れるところです。そもいかなないので、例によって、余計な敷衍を試みます。かくして、角がとれ、深みもなくなり、焦点がふやける不始末なのですが……。

——12月にバッハの《クリスマス・オラトリオ》を上演することは、半世紀以上にわたって築き上げてきた当合唱団の伝統である。当合唱団は、「年末といえば《第九》」の日本のクラシック音楽界に、ヨーロッパ文明の中核の“恒例”を紹介し、多くのバッハ・ファンを獲得してきた。この伝統を絶やさぬことは、当合唱団の責務であり、杉並の誇りでもあるはずだ——。



▲きのこ！ 撮影：千葉光雄（団員）

正しい方向に 勇気を出しましょう

大村 恵美子（主宰者）

最近、私は数人の方々に、トルストイの著書をお送りしました。今の世界は、一般に、どこを見ても力ある者たちの不道德横行ばかりで、手のつけようもないほど……。心が騒ぎますが、何の力もない者が遠吠えをするだけなのも情けなく、マスコミのニュースなども、なるべく社会の良い面を伝えて、一般人を励まして欲しいと思うばかりです。

コロナ蔓延も重なり、暗く、厭世的にならないだけの心の広さも保ちたいものと自戒するこの頃です。「月報」読者の皆様にも、私の願いが届きますように。

以下は、著書に添えた私信の控えです。

* * *

〇〇さま、

とっくに超高齢に達しながら、健康に恵まれ、お医者方からはいつも「100歳よりも、もっと生きてよ」と言われて、終わりは覚悟しながらも、この世を去るに当たっては、自分の気持ちにいちばん近い作家の作品を、なるべくよく理解しておこうと思い、はるか若い頃に読んだトルストイの訳のあるものを、みんな読み直しておきたい、と考えました。小説などはすぐに思い出せたのですが、1905年刊の『文読む月日』は、大部だし、なかなか読みこなせないで放ってありました。今回、覚悟をきめてなるべく精読してみたのですが、始めのほうは、くたくたくして閉口でした。最後のあたりでやっとはっきりしてきて、特に共鳴を感じたのは、次の2点です。

1. キリスト教会は、イエスの直弟子の代からすでにイエスの基本方針に背いて今日に至っている。特に、意見を異にする人々に対する虐待・殺しを正当化している。
2. 人類は、人肉を食するのは、建前上行わないが、他の獣肉は、平気で日常食している。

私自身は、母の影響が強いせいだと思いますが、血のしたたるステーキなど、子どもの時から嫌いでした。また生きていたときの形、また名称がそのまま料理として出てくるのも食べられなかった（豚の耳、牛の舌、鶏や七面鳥などの丸焼き—ふつうは特別上等なごちそうとされるようなもの）。父が鯛の目玉を食べるのを見ても、「いやなお父さん！」と言ってしまふのでした。また父が私たちを連れて魚釣りに行って帰ると、母は「切ったりしませんよ、かわいそうだから返ってきて」と言い、父・子がすくすくと戻しにいったことも覚えていています。

母と私との外食では、いつも肉ではなく魚料理でした（これは矛盾？ 相手が声を出さなければ食べられるというのも、想像力不足のせいなのですが……）。

そんなこんなで、私の辞世の訴えも、人間同士の殺し合い・戦争の絶滅と、他の生物に対する殺生も極力避ける文化の推進、この2つに限ってもよいと思うのです。

その意味で、トルストイの『文読む月日』を、わかっただけそうな方々に、と思いましたが、私をお貸しすると、また返して頂くというお手間になるので、この際「お中元」としてプレゼントし、読むも読まぬもご自由に、とさせていただきますように、とお贈りすることにしました。

さらに、私自身も何らかの行動をとりたいたながら、今は思いつかないのですが、キリスト教会が自らの歴史の間違いを公けにただし、イエスならこうするのが本当ではないか、という言論と行動を、緊急に実行していただきたいのです。日本に限っても、良いとわかっても行なわない、悪いとわかっても改めない——これが常態です。

私は、ケンケンガクガクの言論の闘争は苦手。不言実行と出たいのですが、なかなか始めにくいのが現状です。もっと良心、意志と行動の直結したものになれば、というのが宿願です。

◇追伸

「君が代」を廃して愛唱者の多い「兎追いしかの山 小鮒釣りしかの川」を、国歌と決めては、と考える人々

も多いと言われますが、動物をつかまえて食用にまでするこの歌が、平和を愛する意図の国歌に考えられるとは、心得違いも甚だしいと、私は思います。地球に住む仲間のことを、まるでみくびっている——。陸地も、エゴイスティックに局地的な利便を迫る結果で、もっと広範な災害を引き起こすのに、それを文明開化と取り違えているのです。

『キラキラ星変奏曲』完成を目指して

去る2017年の合唱団創立55周年の折に、バス団員の松尾茂春さんが作曲した『キラキラ星変奏曲』の初稿を、私たちが荻窪教会で演奏したことは、まだ覚えていらっしゃるでしょう。松尾さんは、その後もさらに創意を集中して、この曲の完成に励んでおられるところで、一応の全体像を私に示してくださいました。その譜面に、私の考えを書き込んでお返ししたのですが、作曲者側からも応答がいただけたので、私たちの将来への希望もこめて、ここに開示します。プラス志向の皆様のご支援を期待しています。(大村恵美子)

大村 恵美子 先生

松尾 茂春 (団員)

増補した「キラキラ星変奏曲」への丹念な書き込みを加えた楽譜を受け取りました。最初から最後まで入念に見ていただき、どうもありがとうございました。

バッハの日本語訳詞楽譜の時と同様に、歌詞の言葉と音符の特性を踏まえた歌唱時の重みの違いを示す丸印指示、区切り、フレージングなど、貴重なご指示に感謝いたします。ご指摘いただいた歌唱声部の表記に関しては、その音符の旗の連ね方等を、現状では作譜ソフトによる自動表記のままにしてあったので、今後、個別変更が可能であれば歌いやすい表記になるようご提案に沿って修正していきたいと思っております。

同封のお便りに書かれた、「あの民謡 [キラキラ星] を現代のコラールのように見立てて」とは、ズバリ言い当てられた感じですね。ほとんど誰もが知っており、また音形が素直で展開しやすく、多様な和声を組み合わせ得、幾種類ものカノン構成でき、フーガにも適し、また主音に始まり主音に終わるゆえにバスからソプラノまでどの声部にも持っていけるといった特性を合わせ持った旋律は、他になかなか見当たりません。

目指している曲として挙げられていた「メサイア」は、ほとんど意識にありませんでしたが、キリストの生涯全体をテーマにしたことで、結果的に似た一面を持つことは否めません。バッハの「クリスマス・オラトリオ」や「パッション」は、目指すのも恐れ多いもの

ですが、部分的にでもそんな感じの片鱗が響きの中に見られるようになれば、嬉しいことです。

実は、半ば無意識にバッハの以下の作品も、お手本にして来たような気がします。

- ・独立した器楽部分のない(一部は例外)、変奏曲形式の合唱という点で「モテット」に学び、
- ・変奏数が多く、主題をバスに置く変奏も多いという点で「ゴルトベルク変奏曲」に感化され、
- ・主題の反転、回転、各種カノン、回文的な構造など、音遊び的な要素では「音楽の捧げもの」に刺激を受けている。

また、妻からは、「あなたが長年、日本語でバッハを歌って来たからこそ、こういう曲ができたと思う」と言われました。

さて、お便りに記していただいたように、2022年(創立60周年)の12月の演奏会で、「マニフィカト」の前座として、もしこの曲を取り上げていただくことになるとすれば、大変嬉しく、また光栄なことです。今後具体化が進むようであれば、期待しつつ曲の整備や必要な準備にも注力したいと思います。

2020年7月25日

<公演予定>

下記2企画は、いずれもコロナ禍で1年延期を余儀なくされた、本年7月予定の都内2公演(三崎町教会、荻窪教会)と8月予定の信州3公演(野尻湖神山教会、軽井沢追分教会、小布施ミュージアム)の代替公演となるものです。

第120回定期演奏会は、このたび、会場と日時が確定しました。コンサートツアーは、日付けの調整中です。

いずれも、この状況下、内容は流動的ですが、1年先の目標として、皆さまと私どもとで共有させていただければ幸いです。

■第120回定期演奏会

[日時] 2021年6月5日(土)、午後2時開演

[会場] 川口総合文化センター・リア音楽ホール(JR京浜東北線「川口」駅西口正面、新宿駅から約17分、パイプオルガンを備えた音楽専用ホール)

[曲目]

- ・カンタータ第113番《イエス 高き宝》
- ・カンタータ第93番《ただ主に依り頼み》
- ・カンタータ第78番《イエス わが心を》
- ・カンタータ第184番《待ち望みたる 喜びの光》

■野尻湖宿・信州コンサートツアー2021

[日時] 2021年8月5日~8日(木~日)

[会場] 今夏予定の上記3会場(詳細調整中)

[曲目] 上記4曲より、各会場ごとにプログラム

[演奏] 独唱は、今夏のソリスト方を中心に、第120回定期演奏会と信州ツアー2021とに、それぞれ再編予定。
ARSメンバー(室内楽)、中澤未帆(オルガン)
大村恵美子(指揮)